

我ら信濃川・大河津分水を愛する！

NPO信濃川大河津資料館友の会
法人信濃川大河津資料館友の会

Vol.31 平成25年6月発行

私のおすすめスポット 会員 武田義信（見附市在住）

見附市刈谷田川ふれあい橋から眺める。右に守門岳、左に栗ヶ岳。

栃尾鉄道（愛称トッテツ）が走っていた鉄橋、ふれあい橋、今は、サイクリングロードとして市民に愛されています。その中央を刈谷田川が流れています。昔は街の中を大きく蛇行してたびたび洪水を繰り返していました。今は上流にダムや遊水地、また土手のかさ上げなどが行われ先の新潟福島豪雨にも氾濫せず市民の生活を守ってくれました。

橋から左右の雄大な頂きを眺めていると心が落ち着きます。又、右岸ちかくには水道山公園と観音山公園があり、そこから眺める夕日は、広大な越後平野の向こう日本海に雄大なおおきさで日の入りします。そして明日への活力を与えてくれます。すぐ近くに新潟県ブナ林百選に選ばれた、ブナ・アカシデ自然林があり散歩に最適です。左岸には縄文時代の耳取り遺跡があり発掘調査が行なわれています。現地見学会も開かれ多くの方々が参加されます。小生40年前ほど前にトッテツに乗って栃尾の友達の所へ訪ねたことを昨日のように思い出します。

とてもゆったりとした時間の流れを感じながら近くの丸太のベンチに腰掛けて栃尾方面を眺め、越後の山並みを見るのも私のおすすめスポットです。



栃尾鉄道 刈谷田川鉄橋

上見附駅から長岡、栃尾に通じる。大正5年開通、昭和50年廃線。現在はサイクリングロード。

理事長だより～典生のつぶやき～

なれそめ、大河津分水との

70数年生きてきた私が、初めて大河津分水の存在を知ったのは、恐らくは中学時代、社会科教材の地図帳に載っていた“新信濃川”という表示だったろう。60年以上前、この名前が分水路に使われ、今の信濃川本川は信濃川でないとされていたと言う。とにかく、当時の私は自分の人生にこれがどんなに大きな意味を持つか、全く知らなかったのである。

そんな少年が大学に入り、やがて、実際に大河津分水を見る機会が訪れた。1961年、学友3名と共に新潟の地を訪れた。その頃話題になっていた新潟海岸の侵食問題を案内してくれた新潟県庁の若い技師は、私たちを大河津分水にも連れて行ってくれた。（この方、菊池 功氏とは30数年後長岡で再会することになる。しかし、精悍な地質学者であった同氏も鬼籍に入られてしまった。）ところが残念なことに大河津分水路を見た記憶はほとんどない。これはその6年ほど後に、私は米国へ長期間の留学に旅たったことが原因しているのかもしれない。とにかく、その時の印象で今も目に焼きついている風景は、今日目にすることができなくなった、高いはさ木に架けた稲わらが、どこまでも続く風景であった。当時、このような風景は他の地では見られなかったのだ。

1972年末、6年有余の滞米生活を終えて帰国した。任地は広島県呉市であった。この地に8年間いた後に長岡市に居を移すことになる。大河津分水は日常的に近くにあり、日常的に、渡部武男館長と分水路を訪れることになった。ある日、新潟日報に当時河川工学者として恐らく最も高名であった安芸皎一氏のことが記事になっていた。同氏は新潟市で生まれ、新潟高校を卒業している。大学は、一度は東京大学英文科に入学したが、一年後には土木工学科に入りなおしている。新潟日報はその辺の事情を、建設中の大河津分水で沢山の人々が、蟻が群がるように働くのを見て土木工学者になることを決意したのだと書いてあった。1983年、氏は私たちの大学のクラス会にゲスト参加された。私は“あの新聞記事は本当ですか”と尋ねてみた。氏はいつもどおりの温厚な顔つきで、静かに“本当です”と答えられた。もしももう一度お会いできたならば、もう少し詳しくお尋ねできたらうに、と悔やんでいるのである。（氏の代表的な著書である「川の昭和史」は資料館のライブラリーに寄贈してある。）

平成 25 年度 年次総会報告

5月25日(土)大河津出張所に於いて、平成25年度年次総会が開催されました。5月10日現在の正会員数204人に対し出席58人委任状99人と、定足数に達していることを確認した後、氏田公基会員を議長に選出して、議事が進められました。主な議題は次の通りです。

- ①平成24年度事業報告、決算報告(承認)
- ②平成25年度事業計画案、予算案(承認)
- ③役員改選

平成25、26年度役員には、3名増の理事19名と監事2名が選出され、その後の理事会で部会を含む新体制が決定しました。新体制の元、総予算708万円の新年度事業がスタートしました。早川理事長は新しい会員、新しい発想、新しい活動を探りつつ、着実に歩み続けていきたいと述べられました。三つの新をキーワードに、会員及び地域のみなさまとともに充実した一年にしたいと思います。

平成 25・26年度役員

理事長	早川典生(再任)
副理事長	小林 清(再任)
副理事長	濱田達郎(新任)
理事	畠山卓也(再任)
理事	解良節子(再任)
理事	池田富春(再任)
理事	山田司羅雄(再任)
理事	白倉與志司(再任)
理事	田中隆夫(再任)
理事	丸山晃平(再任)
理事	笠柳シズ(再任)
理事	若月夏子(再任)
理事	横山正二(再任)
理事	山田 薫(再任)
理事	樋口 勲(再任)
理事	橋本誠一(再任)
理事	目黒信雄(新任)
理事	小黒憲雄(新任)
監事	吉田 茂(再任)
監事	小林恒男(新任)

平成 25 年度事業計画

区分	名称	日時	会場
講演会・講座	総会講演会	5/25(土)	大河津出張所
	大河津分水講演会2013	10/27(日)	新潟市
	お茶を楽しむ会	4/21(日)	大河津資料館
	俳句を楽しむ会	5/4(土)	大河津資料館
	河川文化講演会①	7月	大河津資料館
	可動堰工事現場見学会	8月	大河津資料館
	県外河川探訪	9月	東北大震災被災地
	信濃川教養講座	10月	大河津資料館
	サケ祭	10月	大河津資料館
	県内河川探訪	11月	西蒲原の河川
	河川文化講演会②	3月	大河津資料館
会報	たより第31～34号	春、夏、秋、冬	
年次報告	あゆみ	3月	
ガイド	ガイド研修	6、8、10月	大河津資料館
	ガイド実践	開館日	大河津資料館
奉仕活動	花壇整備	5、11月	大河津資料館
	庭木剪定	6月	大河津資料館
	クリーン作戦	10月	大河津資料館
受託業務	大河津資料館管理補助委託	開館日	大河津資料館

事業部体制

部長	濱田達郎
副部長	畠山卓也・樋口 勲
部員	解良節子・山田 薫 池田富春・笠柳シズ 若月夏子・目黒信雄

支援部体制

部長	白倉與志司
副部長	横山正二
部員	山田司羅雄・田中隆夫 小黒憲雄・橋本誠一

広報部体制

部長	早川典生
副部長	丸山晃平・五十嵐晃
部員	氏田公基・斎藤 麗

特別講演「大河津分水路の抜本改修に向けて」を聴いて

広報部 丸山晃平

平成25年5月25日友の会総会時、信濃川河川事務所常山修治様よりご講演をいただきました。大河津分水路完成当時から、問題点として河幅が狭い部分があり、流れる水量をこれ以上増やせない点がありました。平成23年7月30日の新潟福島豪雨時、毎秒8300tがピークでした。そのような、もろもろな事情をふまえ抜本改修の原案が作成され、現在自治体との連絡調整がなされています。

抜本改修の4つの柱

1. 第2床固の改修

水のエネルギーを殺す所だが、損傷が激しい。床留下流に30mの穴があった。(右図のX部)

2. 河口山間部の拡幅

岩ははがれやすく扱いにくい。

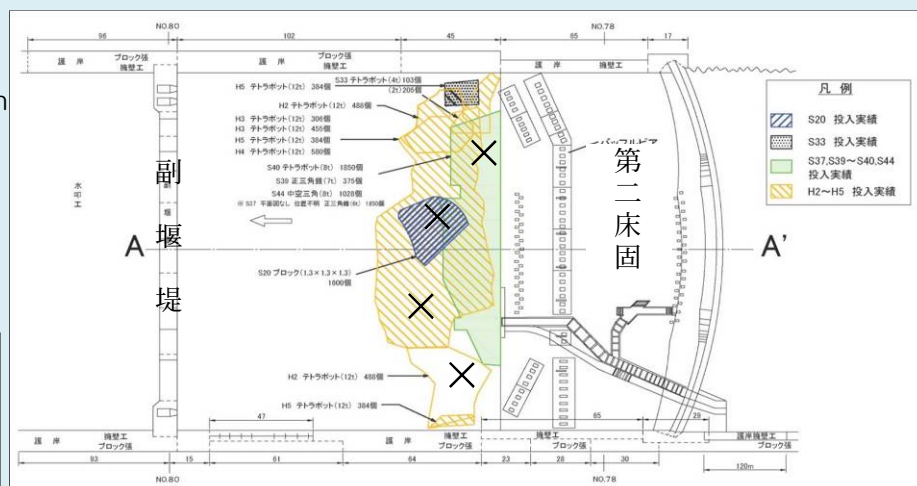
3. 低水路掘削

4. 堤防浸透対策

堤防の強化



信濃川河川事務所常山所長様



右図注

- * X部 川底を削られないよう手当てをしてきたが、流れが強くと掘られる。
- * 拡幅でできる土砂の捨て所の問題は、未解決(図は信濃川河川事務所提供)



イベント案内

河川文化講演会 開催

「越後平野の気になる地理—平野の形成過程と
土地利用：縄文時代から現在まで—」

講師：小野映介（新潟大学准教授）

越後平野はどのようにできあがったのか、どのように利用されてきたのか。講師は『知っておきたい新潟県の歴史』などを執筆された新潟大学の小野先生。

縄文時代から現代までの平野の歴史や、私たちの生活を支える平野の姿を知るチャンスです！（広報部）

日時：平成 25 年 7 月 6 日（土）14:00～16:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

新可動堰工事現場見学会 開催

最終年度を迎えた新可動堰の工事見学会を開催します。今回は新しい管理橋で分水路を横断する予定です。日射対策を万全にお集まりください。（事業部）

日時：平成 25 年 8 月 10 日（土）10:00～12:00

集合：大河津資料館

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

ガイド研修を行います！

大河津資料館管理補助業務実施の一環として、本年度第 1 回目のガイド研修を行います。今回は分水消防署の指導による消火訓練を併せて実施します。業務担当者の参加をお願いします。

業務には携わっていないけど興味がある、やってみたいという会員の参加も歓迎です。（事務局）

日時：平成 25 年 6 月 22 日（土）8:30～12:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

助っ人募集！庭木剪定を行います

恒例となった資料館周辺の庭木の剪定を行います。剪定はできないが剪定クズなら集められる。草刈は得意。そんな方大歓迎です。

手持ちの道具を持参して下さい。（支援部）

日時：平成 25 年 6 月 22 日（土）13:00～15:00

場所：大河津資料館敷地内

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

お茶を楽しむ会を開催しました

4 月 21 日（日）11:00～ 参加者：300 名
桜の咲き具合もちょうど良かったのですが、あいにくの雨。おいらん道中も体育館ということになってしまいました。残念ながら、我がお茶会も昨年並みの大盛況には程遠いものでした。それでも雨に煙る大河津分水も中々のもの、ゆったりとした気分で一服、至福のひと時を過ごしていただけたのではないのでしょうか。

※東北大震災義援金が 10,253 円集まりました。

必ず被災地にお届けします。ありがとうございました



俳句を楽しむ会を実施しました

5 月 4 日（土）13:00～15:00 参加者：20 名
好天に恵まれ、爽やかな風、澄みきった青空、きれいな川の水、俳句を詠むには最高のコンディション！
すばらしい句が沢山出来ました。俳句集も作りました。
希望者は事務局までご連絡ください。

分水路雪解け水を呑みつくす

早川典生

花魁の道に蒲公英列をなし

濱田敏子

酸漿手に分水駅より六千歩

松井広宇

（田村紅子選より）



宮本武之輔写真集及び信濃川補修工事 竣工記念碑拓本（複製）を差し上げます

一般社団法人北陸地域づくり協会（旧北陸建設弘済会）のご厚意により、標記写真集及び拓本を当会に寄贈いただきました。希望される会員に差し上げます。事務局までご連絡下さい。送料は実費負担となります。資料館でも受け取れます。



信濃川水系河川整備計画原案 が公表されました

今後 30 年間に行う河川整備の内容を定める信濃川水系河川整備計画原案が、北陸地方整備局から公表されました。当会五百川顧問が委員を務める学識者会議等での検討を経て作成されたもので、住民や学識経験者、自治体の意見を聞いたうえで最終決定されます。

原案には、洪水の安全な流下のため、大河津分水路の改修を優先的に進めることが明記されました。河口部拡幅などによる安全度向上が期待されます。

原案は国交省北陸地方整備局 HP でご覧下さい。



団体会員
ご紹介

我ら大河津分水応援隊！

恩恵を常に感謝する我が地域

株式会社 田中組

友の会の会員の皆様には紙面をもって初めてご挨拶申し上げます、代表取締役の田中ヒロ子でございます。会社は設立昭和32以来土木、建築の分野で地域の皆様と公共関係機関の方々の多大なご支援をいただき今日の会社が成り立っていることに感謝申し上げます。

私どもが住んでいる地域は、新潟市江南区横越地域ですが信濃川と阿賀野川に挟まれた、まさに大河津分水が出来る前は幾多の洪水被害に遭い、また葦原といわれる低湿地な条件で暮らしにもたいそう難儀をした地域でしたが、今では大河津分水のおかげで安心、安全、快適な環境で暮らすことが出来ています、いつも感謝しておる下流域の住民です。特に平成23年信濃川、阿賀野川同時に大出水が発生したときには大変恐ろしい体験をいたしましたが、大河津分水のおかげでたいした被害もなく安心しました。

しかし、聴くところによると大河津分水も平成23年出水以上の水が出れば今の施設では不安があると聞いています。私たち下流域に住む住人としては子供や孫たちが安心して暮らせる環境を一日でも早く実現出来るよう祈るばかりです。

友の会としても啓蒙活動を通じて大河津分水の役割、歴史を広めていただきたいと願う事で、団体会員としても微力ながらも応援したいと思います。最後に役員の皆様、会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念してご挨拶申し上げます

大河津分水への希望

株式会社 近藤測量設計

この度のNPO法人信濃川大河津資料館友の会様とのご縁を戴き、日頃より会のご活動を知る毎にその功績に衷心より敬意と感謝を申し上げる次第で有ります。

さて、当社は測量、設計業及び建築コンサルタントとして開業以来三十余年が経ち、公共事業を主体として近隣の民間事業も含め社会資本整備の開発に係わっている会社で有ります。実を申しますと、この度のテーマで有ります「大河津分水」の測量調査を数年前に民間依頼で有りましたが、分水路の両岸に設置されております距離標の座標点検と、或る区域の河川横断測量を実施した経緯が有ります。その際に頭を過ぎった思いが有りました。

それは明治維新の頃に逞しい先人たちが、英知とその時代背景の中でも最先端の技術や開削工法を駆使して、また多くの時と犠牲を払って完成したのが大河津分水路で有りました。それまでは幾度となく信濃川の「横田切れ」でも象徴される氾濫で、越後平野に大水害をもたらし家は流され、田畑は泥沼と化し貧困生活を強いられた状況を思い浮かべた訳で有ります。そして、今から百数十年前に我々の大々先輩の測量・設計の大家が指揮を執られ、この大事業に貢献されこれまでにこの大河津分水路のお陰で人々が救われて来た事を思うと、敬意と同時に先人に対する哀悼の念を抱かずにはられない心境と成りました。

今改めて新しく完成した新可動堰から日本海へと流れる分水路、信濃川の水は常には下流へと越後平野を潤し、また洪水時にはその役割を大いに果たし、越後平野を水害から守る為に燕市は勿論の事新潟県の誇りとして、全国へ向けて情報を発信し、訪れる観光ルートへ更なる働きかけを願うもので有ります。NPO法人様の今後のご活躍を節にご期待申し上げ、また歴史と文化の漂う大河津分水を未来への貴重な財産として後世に受け継いで頂けます様に念じております。

地域への貢献

株式会社 レックス

当社の社名レックス（RECS）はRegion（地域）Environment（環境）Create（創造）Service（貢献）の英語の頭文字をとって付けられています。建設業ですので、道路の総合維持管理や河川の維持管理を通じて地域環境の創造に貢献するよう事業に取り組んでおり、道路の舗装や標識・ガードレールの設置、下水や橋の補修から専門機械による側溝清掃や除草作業、そして駐車場の整備や交通事故により破損した構造物の復旧など、幅広く事業を展開しています。そのような中での当社と信濃川とのかかわりといえば、信濃川の堤防除草作業を請け負ったり、大河津分水公園や資料館の案内看板設置に携わったことが挙げられます。

信濃川大河津資料館といえば大河津分水の歴史や役割、周辺地域の人々の暮らしなどを学び、信濃川を母なる川として生活する我々が先人達の苦労や分水路建設に対する強い思いにふれることができる特別な場所です。当社としても資料館や公園の整備に携わることで、周辺地域の環境創りに関わることができうれしく思っています。

これからも資料館が大河津分水を学ぶ施設として多くの人々に親しまれ、友の会の皆様の活動がますます盛んになりますよう応援致しております。

＜編集後記＞ NPOとしての実質2年目がスタートしました。理事長が標榜される「新」を意識して紙面を拡充しました。「理事長だより～典生のつばやき～」にもご注目下さい。みなさんからの投稿を掲載し、会員同士をつなぐ「たより」にしていきたいと思ひます。「私のおすすめスポット」の他、信濃川や大河津分水への質問、講座等の感想、友の会へのご意見など、様々な投稿を歓迎します。（五）

＜事務局連絡先＞

〒959-0123 燕市大川津 1215-7

TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp <https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>